

世界の主要ワイン生産国における ワイン産業の分析 —中国—

解題／翻訳 高橋 梯二

解題	2
世界の主要ワイン生産国におけるワイン産業の分析 —中国—	6
1. マクロ経済の状況	7
2. 農業気象環境	9
3. ワイン産業の生産の可能性	12
4. ワイン産業の構造及び生産コスト	19
5. ワイン産業の活動組織	23
6. 規則	24
7. 市場	26
8. 課題及び競争力	29
参考 アジアモンスーン地帯の国のワインの生産と消費比較表	31

解題

高橋 梯二
(フランス国トゥルーズ大学法学博士)

本稿では、2016年12月に発表されたフランス全国農産物・海産物機構及び原産地呼称ワイン全国職業委員会による「世界の主要ワイン生産国におけるワイン産業の分析(Analyse des filières vitivinicoles des principaux pays producteurs dans le monde)」のうち中国の部分の翻訳を紹介する。また、中国のワイン事情を理解するうえでの参考として日本を含むアジアモンsoon地域のワイン生産主要国のワイン生産と消費に関する比較表を添付する。

本稿を作成するに当たっては、中国の事情に詳しい農政調査委員会土田清蔵氏及びワインの専門家であるメルシャン株式会社顧問斎藤浩氏から貴重なアドバイスをいただいた。

中国で近代的なワイン生産が始まったのは19世紀後半とされるが、本格的に生産が開始されたのは、1980年代であり、インド、タイ、ベトナムなどとほぼ同時期に始まっている。しかし、その後約30～40年という短い期間でブドウ生産とワイン生産を急速に拡大させ、現在では中国は世界で第5番目のワイン消費大国に成長している。ワインの生産量で見れば中国は1,100万hlと日本のワイン生産量110万hl(輸入果汁によるワインを含む)の10倍となっている(2014年)。しかも、中国では今後もさらにワインの消費量は拡大していくものとみられている。

このような他国では例を見ない中国の急速なワイン産業の発展の過程で、150年ほど前からワイン生産が始まった日本とは大きく異なるワインの生産・消費構造が形成されてきたことをこの資料は示している。

たとえば、

- ① 国内で生産されるワインの中国国内市場での競争力は高いとみられ、海外のワインにそれほど押されることはなく、ワインの輸入が比較的少な

く果汁などの原材料の輸入も多くはないことである。したがって、ワイン・ブドウ資源の海外への依存度は28%程度にとどまっている。日本では、輸入ワインや輸入濃縮果汁など海外資源への依存度は95%程度と極めて高い。1980年代にワイン生産が始まったタイ、ベトナムなどでも国内生産をはるかに上回る量のワインが輸入されている。ただ、インドはワインに対する高関税(約150%)を維持しており輸入ワイン等の量はそれほど多くない。

- ② 植えられているワイン用ブドウは、ヨーロッパ品種、特に、ヨーロッパ高貴品種がほとんどであり、しかも、カベルネ・ソーヴィニオンが全体の63%を占めている。中国の土着品種やアメリカ品種はほとんど見られない。日本では、甲州種やマスカット・ベリーAなど日本の気候に比較的良好に適合する伝統的品種が32%もあるのは大きく異なっている。
- ③ 中国で栽培されるブドウによるワインの多くは、いわゆる4大企業によって生産され、その生産シェアは69%にも達する。中国のワイン生産と消費の増加はこれらの大企業グループによってけん引されているといえる。この4大企業によるワインは中級以下のワインが多く、大量のこれらのワインのほとんどが中国国内市場で消費され、輸出されるワインは非常に少ない。
- ④ 中央及び地方政府の支援と指導が強力に行われている。例えば、土地の取得に関する資金援助、低料金による農地の貸付、灌漑施設や道路建設などインフラ投資に対する資金援助などがなされている。また、ワイナリーに対しては政府からの出資、施設整備の信用保証、海外の有名なワイナリーの招へいに対する支援などが行われており、また、ワインの買取りも行われている。さらに、中国は数度にわたるワイン生産目標を樹立し、その沿ったブドウ生産の拡大が奨励されている(2012年第12次ワイン事業5か年計画では2015年の生産目標2,200万hl)。

以上のような、急速なワイン生産の拡大等中国のワイン生産・消費構造がどの